

# 教務だより

2010年6月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 理解してから、理解される

茗溪塾塾長 宇野 雅春

1学期も半ばを過ぎ、夏へと向かう今日この頃です。先生方もクールビズへと衣替えをし、昨年に引き続き空調をあまり下げずに地球の環境維持に貢献する決意でいます。このクールビズは一昨年あたりから徹底していますが、おかげで、夏場でのクーラーによる体調不良が激減しました。ただし、梅雨前のちょっと暑いあたりの日は、まだクールビズの効果が薄く、つついクーラーの温度を下げがちです。そのため授業中でも、クーラーを巡る争いが発生します。

まず、クーラーを入れて暫くすると寒がりの生徒が「寒い...」と青ざめて訴えてきます。クーラーを切って暫くすると、今度は暑がりの生徒が「暑い...」と騒ぎ始め、授業を続行するために、空調を入れ直すこととなります。暫くすると「寒い...」「いや暑い」という論戦が始まり、この二つの意見は収まるどころを知りません。座席を変えてみたり、寒がりの生徒は上に羽織るための衣類も準備。それでも寒い生徒は寒く感じ、暑い生徒は暑くて耐えられないということになります。いつの間にか「クーラー戦争」と呼ぶようになったこの争いも、この10年くらいの現象です。生活スタイルが向上し、家庭はもちろん学校を含めあらゆる場所に空調が取り入れられるようになって、このちょっとした暑さ寒さに敏感に反応する子供や大人が増えてきているのかなと思います。先日たまたま説明会にお茶を準備することになったとき、冷たいお茶と熱いお茶を二種類用意し、来塾したご父母の方に選んでもらったところちょうど半々に分かれしました。それも受け取る時に、どちらにしようかと迷う人はほとんどなく「熱い」「寒い」の選択はどの方も当然といった感じでした。明らかに二つの違うタイプが存在します。

そこで「七つの習慣」の「理解してから、理解される」という第5の習慣に思い当たりました。暑がりも、寒がりも、どうしてこの辛い状況を分かってくれないのか？と訴えてきます。ともにその状態では、勉強もできない上に体調不良に陥り、重い病気になってしまうかもしれない...という深刻な問題に発展させて考えるので、時として友情に亀裂が入る事さえあります。攻められた教師の側としては、「それでは君たちはアフリカや赤道直下の国では、空調がなければ死ぬということなのか！」とか戦争中の国の子供達の悲惨な状況を例に挙げたりして叱責することになります。しかし、これは、ほとんど説得力を持ちません。なぜなら言われている子供達にすれば、彼らの辛さを私が全く理解していないように見えるからです。

「理解してから、理解される」は、自分の事を「分かってくれない」と思う前にまず相手を理解しようという習慣です。受験勉強の時に一番多いのは、勉強やお稽古事もしくは中高生なら部活動などに追われ「辛い思いをしている」生徒が、「勉強しろ！」とうるさく言う親に「何で自分のつらさや大変さを分かってくれないのか？」と不満に思う事です。そういう子供は、逆に親が置かれている状況や、親の大変さに気づいていません。厳しすぎる父親や母親に良く避難が集中しますが、厳しい父親ほど、日々過酷な労働にさらされている事が多く、厳しい母親ほど仕事や家事などで多忙な場合が多いものです。ゆとりがあれば、優しくできるということ...。お互いに自分を主張をする前に、相手を理解しようという努力は、できそうでいてかなり難しいことです。

誰もが自分の経験を第一に考えて相手にも接していきます。「クーラー戦争」に対する思いもかけない解決は、地球温暖化防止のためにはじまったクールビズという第三の道です。教室を冷やしすぎずに涼しくすることが、究極地球の未来に貢献するという発想は、相互理解の上に、お互いの大きな利益につながっていきます。

受験勉強の大変さが、休みもそこそこに働く父母への理解につながり、その理解が父母の余裕を作り、子供の側にもやる気とゆとりを作るような気がします。「理解してから、理解される」というこの習慣の獲得が、より効果的で楽しい受験勉強を可能にしてくれる気がします。